

# 蛭ヶ岳山荘通信 第77号

発行日 令和2年10月20日  
発行者 北丹沢山岳センター  
事務局 神奈川県相模原市緑区小淵 1545-1  
TEL042-687-4011 FAX042-687-3980

## 蛭ヶ岳山荘は現在宿泊人数を制限して営業中です

蛭ヶ岳山荘は通年営業を行っていますが、新型コロナウイルス禍により今年5月は神奈川県  
休業要請を受け休業、しかし山での非常事態に備え管理人は常時駐在していました。現在山荘では  
一日の宿泊人数を制限し、寝具の枕カバーや敷布団カバーを使い捨てる品物に変更するなど対策を  
講じながら営業を続けています。また、9月には2回に分けて計4日間ボランティアの方々により  
山荘外壁の塗装作業を実施しました。平成9年に山小屋が再建されてから実に23年ぶりの事業と  
なり、ボランティア参加者は建設業をはじめ、様々な職業の方からお力を貸していただきました。  
心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



～蛭ヶ岳山荘を支えた人々～ 敬称略

(歴代管理人) 木全広幸 梶原紘 杉本昭 (現在管理人) 東城進紀 樋詰順郎  
(サポーター) 平野秀樹 植村昇司 久我宣裕 橋本健司

## 今秋の蛭ヶ岳山荘荷上げ作業は…

昨年秋は台風19号に翻弄された荷上げ作業でした。通常荷上げに使用している神ノ川ヒュッテのヘリポートは、台風による神ノ川林道崩落の為依然として通行止めが続いており、使用できません。春の荷上げはそれでもヒュッテ手前の広場を使用して行う事ができました。今回は諸事情により昨秋と同じく東丹沢の菩提峠上より10月27日に荷上げを実施予定です。今回の積荷には食材や燃料のほか、新型コロナウイルス感染拡大予防対策を強化するべく間仕切り用のプラスチック板も搬入されます。これらの荷上げ作業もボランティアの方々のお力を借りて毎年春秋に行われています。

## ◆登山道について◆

今年の登山道整備は、神奈川県環境保全センターにより実施が予定されています。場所は丹沢山～蛭ヶ岳間です。

## ◆現在登山道の通行可能区間◆

## 青根平丸集落より平丸分岐～姫次～蛭ヶ岳

他のコースは通行不可能となっています。ご注意ください。

## 深田久弥著「日本百名山」より転載 丹沢山は丹沢山塊の総称であり、その代表が蛭ヶ岳である

大山を一名雨降山と呼ぶのは、この山の頂上にはいつも雲や霧が多く、大いに雨を降らすからで、そのため雨乞の山ともなっている。今でもその表登山口には、め組だの、は組だの、消防の寄進の碑がたぐさんあるのは、火消しと雨とは関係が深いからだろう。

時により過ぐれば民の嘆きなり八大竜王雨やめたまへ

という実朝の歌は、この大山の山神に献じられたものだと言われる。

しかし現代の登山者は、そういう因縁じみた人間臭い山を避けて、もっと自然のままの原始的な山に惹かれる。大山は丹沢山塊の別格であって、主に登山の対象とされるのは、塔ヶ岳、丹沢山、蛭ヶ岳等一連の山脈、及びそれらの山々へ食い入る沢筋である。もともと、里に近い塔ヶ岳などは昔からよく人が登ったらしく、頂上の近くに黒尊仏と呼ばれた高さ五丈八尺の巨大な岩(大震災で崩壊した)があつて、尊崇されたようである。相模は昔から博打の盛んな所で、毎年五月十五日塔ヶ岳に登る道筋には博徒が参集して賑やかに開帳したと聞いている。

最高峰は蛭ヶ岳(毘盧ヶ岳)で、一名薬師ヶ岳とも呼ばれた。私はその頂上に立ったのは随分前のことだが、いかにも深山の感じがしたのは、そこから見渡すあたりが鬱蒼たる森林のためだったろう。今はどうか。蛭ヶ岳から西に、メングリした頭の檜洞丸がある。丹沢で第二の高峰であるが、樹木で覆われていて道がなく、怪峰とか秘峰とか呼ばれたものだが、今はどうか。

私が百名山の一つに丹沢山(丹沢山というは山塊中の一峰である)を取りあげたのは、個々の山嶽志から始まったのだらうと思うが、ただ表尾根を歩いただけでなく、その奥深く入れば、山の規模は大きく複雑で、容易にその全貌をつかめない。

『山岳』第一年一号(一九〇六年)に載っている長文の塔ヶ岳登山記を見ると、案内人を連れていく。その後の大正時代の登山者も、多くは案内人を伴ったようである。それほど未知の山であったのに、今日の繁盛ぶりはどうだろう。第一の原因は東京に近く、手軽に行けるからだろう。谷川岳と丹沢山は東京の大衆登山の二大流行地となった。そして谷川岳に劣らずこの山にも遭難事件が頻繁に起っている。

